

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田喜代史
淡河恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶ 本号の特集は、「放射線療法と免疫療法との併用療法を考える」です。免疫療法と放射線治療の相互作用にはいろいろなものがありますが、一番有名なものはアブスコパル効果です。免疫療法が一般的になる以前は、放射線治療や放射線生物学を専門にしている、ごく一部の先生しか知らない専門用語でしたが、今や放射線の領域以外の先生方にも、広く知られるようになってきました。

▶ さて、私が研修医だった約30年前の放射線治療は、X線シミュレーターによる治療計画が一般的でした。やがてCT治療計画が普及し、「大きく進歩したものだ」と思っていたところ、ガンマナイフやリニアックによる頭蓋内腫瘍に対する定位放射線治療が導入され始め、さらに体幹部定位照射に応用が広がり、「こんな正確な治療ができるのか」とびっくりしたのもつかの間、画像誘導放射線治療や強度変調放射線治療の普及と、X線による放射線治療はめまぐるしく発展してきました。強度変調放射線治療が2008年に本邦で保険収載されて10年が経過し、「放射線治療の発展も一段落だな」と思っていたところで、今度は免疫チェックポイント阻害薬の登場です。免疫チェックポイント阻害薬は放射線治療との相性がよいとされており、今後さらに放射線治療が大きく発展する時期を迎えているのかもしれません。もちろん、進化を続けている粒子線治療やホウ素中性子捕捉療法の進歩も楽しみです。

▶ さらに、本年9月にシカゴで開催された米国放射線腫瘍学会では、FLASH radiotherapyが大きなトピックとなっていました。これは、100 Gy/秒以上の超高線量率で照射すると、腫瘍制御率は同程度で、有害事象の発生頻度は低下する、といった夢のような技術です。5~10年後には、一回の放射線治療は一瞬で終わって、副作用は少ない治療が実現しているかもしれないと、放射線治療のさらなる発展に期待しています。

中村和正

「臨床放射線」第64巻第11号

2019年10月10日発行（毎月10日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金 定価（本体39,700円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600

FAX 06 (6941) 5605

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。